

安全就業ニュース

公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会



草刈機での飛び石の事故が多発しています。必ず飛散防止ネットを設置して作業してくださいね。

★今月の事故★

1. 事故の概要（就業中）

河川敷での屋外清掃作業中に誤って階段から転び倒れたと推測（目撃者なし）。就業現場付近にいた人が救急通報。頭蓋骨骨折、脳挫傷との診断を受けた。発生から1年以上経った現在も入院中。

2. 事故の原因

目撃者がいないことから原因は不明。警察は「清掃作業中に誤って転倒したのでは」と推測。センターにて現場を確認したが、特段の危険箇所は見当たらなかった。

3. 事故発生後の対応及び再発防止策

【センター】

- 安全・適正就業委員会を開催し、再発防止策等を検討した。
- 安全・適正就業講習会を開催し、会員への注意喚起を行った。
- 「作業前や移動時の安全確認を必ず実施すること」「危険予知を行い事故やけがの防止に努めること」を会員に徹底した。
- 作業を「2人で実施すること」としてお互いの状態を確認できるようにした。

【連合本部】

- 当該センターに対して、会員への注意喚起を指示した。
- 当事故を各センターへ周知し、注意喚起を行った。

4. 全シ協から

就業中とくに清掃作業中に階段（段差）から転落する事故はとても多く、一向に後を絶ちません。階段での作業や移動に階段を使用する際は、前方や足元が見えなくなるような荷物の持ち方をしないよう気をつけ、後ろ向きでの作業は禁止するなど（下から上への作業、手すりにつかまっの作業）特に気をつけましょう。

また、清掃作業は、下向きの作業が多く周りへの注意が疎かになるため、作業前に段差や片付けていないところ、濡れていないかなどの状況を確認するよう徹底してください。安全が確保できない場合（急な階段など）はお断りしてください。

さらに、複数人での作業体制や段差があるところではヘルメット等を着用することもご検討ください。

就業中・就業途上に関わらず階段を上り下りする際は、急がず、慌てず、走らずに、手すりをしっかりと持って、足元をよく見ながら、ゆっくりと上り下りするようにしましょう。

令和5年2月（令和4年度）事故速報

(1) 重篤事故

2月は、2件の重篤事故の報告がありました。

2月までの累計で比較してみると、令和3年度の35件と比して令和4年度は24件と11件減少しています。

また、就業中・就業途上別で見ると、就業中では令和3年度の24件と比して7件の減少となっており、就業途上については、令和3年度の11件と比して4件の減少となっています。

2月報告分までの累計

令和4年度累計	就業中・ 就業途上	件数	内 訳				令和3年度同月累計					
			事故の程度		性別		計	事故の程度		性別		
			死亡	入院	男性	女性		死亡	入院	男性	女性	
就業中	17(1)	13(0)	4(1)	14(1)	3(0)	就業中	24	18	6	24	0	
就業途上	7(1)	3(1)	4(0)	5(1)	2(0)	就業途上	11	5	6	8	3	
計	24(2)	16(1)	8(1)	19(2)	5(0)	計	35	23	12	32	3	

() は、当月分報告分

2月報告分内容

No.	性別等	仕事内容等	事故の状況	安全 帽	安全 帯	交通 手段
23	男 76歳	就業 (入院)	就業現場（河川敷）付近にいた人から救急通報があり、清掃作業中、階段から転び倒れたと推測される。頭蓋骨骨折、脳挫傷との診断を受けた。	—	—	—
24	男 76歳	途上 (死亡)	就業後、自宅まで歩いていたら何らかの事情で転倒し後頭部を打ちあおむけに倒れているところを発見された。	—	—	徒歩



剪定作業では、必ず
保護帽(ヘルメット)
を着用してください。



(2) 1ヶ月～6ヶ月未満の入院及び後遺障害の事故

2月は、就業中の事故15件、就業途上の事故1件と、合計16件であり、昨年度同月の23件と比して7件の減少となっています。また、男女別では、男性は1件の増加となっており、女性は8件の減少となっています。

2月までの累計で比較してみると、昨年度の247件と比して、本年度は216件と31件の減少となっています。就業中・就業途上別にみると、就業中は165件で18件の減少となっており、就業途上は51件で13件の減少となっています。男女別では、男性は29件の減少となっており、女性は2件の減少となっています。

令和4年度2月分

	仕事の内容	事故数(件)		男性(件)		女性(件)		平均年齢(歳)		
		2月	累計	2月	累計	2月	累計	2月	累計	
就業中	植木・樹木の剪定等	7(4)	60(68)	7(4)	60(68)	0(0)	0(0)	79	76	
	除草作業	2(1)	28(40)	2(0)	25(34)	0(1)	3(6)	70	76	
	屋内・屋外清掃作業	4(5)	40(34)	0(1)	12(11)	4(4)	28(23)	74	77	
	その他	2(4)	37(41)	1(3)	26(30)	1(1)	11(11)	85	77	
	計	15(14)	165(183)	10(8)	123(143)	5(6)	42(40)	77	76	
就業途上	交通手段	徒歩	0(5)	17(20)	0(0)	2(5)	0(5)	15(15)	—	75
		自転車	1(3)	26(25)	1(2)	14(11)	0(1)	12(14)	67	77
		バイク	0(0)	5(10)	0(0)	2(6)	0(0)	3(4)	—	71
		自動車	0(1)	3(9)	0(0)	1(6)	0(1)	2(3)	—	73
		計	1(9)	51(64)	1(2)	19(28)	0(7)	32(36)	67	76
合計		16(23)	216(247)	11(10)	142(171)	5(13)	74(76)	77	76	

()は令和3年度同月の発生件数

「シルバー人材センター団体傷害保険に係る事故件数等報告書」については、事故の有無にかかわらず毎月8日までに必ず提出願います（平成30年4月24日付 事務局長通達により通知済）。

※ シルバー団体傷害保険の支払いが確定した事故については、速やかに「シルバー団体傷害保険に係る事故件数等報告書」により報告し、報告漏れがないようお願いします。

★自転車に乗るときはヘルメットを着用しましょう★

自転車利用が増える一方で事故も増加しています。自転車に乗る際のヘルメットの着用について、これまでは13歳未満の子どもを対象に保護者が着用させるよう努めなければならないとされていましたが、改正道路交通法の施行により、令和5年4月1日から年齢を問わず自転車に乗る全ての人にヘルメット着用が努力義務化されます。

自転車事故で死亡した人の約7割が、頭部に致命傷を負っています。

また、ヘルメットの着用状況による致死率は、着用している場合と比較すると約2.3倍も高くなっています。

自転車用ヘルメットを着用し、頭部を守ることが重要です。

(3) シルバー派遣事業における労働災害報告の事故（休業1ヶ月以上）

12月は仕事の型別では、「その他の運搬・清掃・包装等の職業」7件、「清掃の職業」3件「教育の職業」、「家庭生活支援サービスの職業」「その他のサービスの職業」「製品製造・加工処理の職業」が1件であり、合計14件でした。前年同月の11件と比べ3件の増加となっています。また、男女別では、男性は3件の増加となっており、女性は4件と同数となっています。

12月までの累計で比較してみると、昨年度の96件と比して、本年度は92件と4件の減少となっています。また、男女別では、男性は1件の減少となっており、女性は3件の減少となっています。なお、12月に死亡事故はありませんでした。

令和4年度（12月分）

仕事の型（中分類）	中分類コード	事故数（件）		男性（件）		女性（件）		平均年齢（歳）	
		12月	累計	12月	累計	12月	累計	12月	累計
建築・土木・測量技術者	9	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	—	—
社会福祉の専門的職業	16	0 (2)	3 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (2)	3 (4)	—	67
教育の職業	19	1 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (1)	67	67
その他の専門的職業	24	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	—	69
一般事務の職業	25	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	—	71
出荷・受付係事務員	27	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	—	80
商品販売の職業	32	0 (1)	2 (5)	0 (1)	2 (1)	0 (0)	0 (4)	—	70
販売類似の職業	33	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	—	—
営業の職業	34	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	—	73
家庭生活支援サービスの職業	35	1 (0)	5 (10)	0 (0)	0 (2)	1 (0)	5 (8)	70	70
飲食物調理の職業	39	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	—	72
施設・ビル等の管理の職業	41	0 (0)	0 (2)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	—	—
その他のサービスの職業	42	1 (1)	5 (6)	1 (1)	1 (2)	0 (0)	4 (4)	80	75
農業の職業	46	0 (0)	2 (4)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (2)	—	74
林業の職業	47	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	—	69
生産設備制御・監視の職業 (金属材料製造、金属加工、金属溶接・溶断)	49	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	—	72
生産設備制御・監視の職業 (金属材料製造、金属加工、金属溶接・溶断を除く)	50	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	—	70
製品製造・加工処理の職業	54	1 (0)	3 (2)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (2)	80	73
機械組立の職業	57	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	—	73
生産関連・生産類似の職業	64	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	—	75
自動車運転の職業	66	0 (1)	0 (3)	0 (1)	0 (3)	0 (0)	0 (0)	—	—
採掘の職業	74	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	—	—
運搬の職業	75	0 (0)	2 (4)	0 (0)	1 (4)	0 (0)	1 (0)	—	71
清掃の職業	76	3 (3)	15 (16)	2 (3)	9 (7)	1 (0)	6 (9)	76	72
包装の職業	77	0 (0)	4 (1)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	3 (1)	—	75
その他の運搬・清掃・包装等の職業	78	7 (3)	38 (31)	6 (1)	25 (23)	1 (2)	13 (8)	77	74
計	—	14 (11)	92 (96)	10 (7)	47 (48)	4 (4)	45 (48)	75	73

() は令和3年度同月の発生件数

令和2年4月以降に発生した「派遣労働会員の業務災害(休業日数4日以上又は死亡)」、「派遣労働会員の通勤災害(休業日数4日以上又は死亡)」については、「全シ協会員専用ページ」の「シルバー派遣事業における労働災害報告」により、各月翌月最終稼働日までにご入力ください。また、労働災害(業務・通勤ともに)が発生しなかった場合も「労働災害未発生報告」を選択のうえ、各項目をご入力ください。
(令和2年4月22日付 2全シ協発第12号により通知済)

★ 安全リレー ★

神奈川県における安全就業の取り組み

1. 神奈川県シルバー人材センター連合会の概要（令和3年度実績）

・センター数	32 センター	
・会員数	35,609 人	
・粗入会率	1.3%	
・受注件数	95,280 件	（内、派遣：2,291 件）
・契約金額	12,103,928 千円	（内、派遣：1,422,174 千円）
・就業延人員	2,337,355 人	（内、派遣：225,518 人）
・就業率	請負・委任：60.8%	派遣：72.9%
・就業実人員	請負・委任：21,647 人	派遣：2,445 人

神奈川県には狭い県土に3つの政令指定都市があり、これらのセンターには本部の他それぞれ複数の事務所（横浜市6、川崎市3、相模原市6）が置かれ、このことが大きな特色となっている。

2. 事故発生状況

(1) 過去5年間の事故発生状況

年度	傷害事故（件）			賠償事故 （件）
	就業中	就業途上	合計	
H29	113 (1)	25 (0)	138 (1)	125
H30	135 (0)	32 (0)	167 (0)	132
R1	120 (2)	31 (0)	151 (2)	115
R2	139 (1)	43 (1)	182 (2)	111
R3	110 (1)	35 (0)	145 (1)	108

(注) 1. 傷害事故件数中、() 内は死亡事故数

2. 傷害事故・賠償事故ともに各年度中にシルバー保険が支払われた件数

(2) 全シ協へ報告した事故件数の推移について

「死亡」又は「1 ヶ月以上の入院」及び「後遺障害 30%以上」の事故

	墜落・転落	転倒	交通事故 (道路)	その他	合計 (件)
H29	3	0	1	2	6
H30	5 (1)	3	2	0	10
R1	5 (2)	5	2	1	13
R2	6 (1)	6	3 (1)	2	17
R3	1	6	1	2 (1)	10

※ () 内は死亡事故数

本県の傷害事故発生状況の特徴として、「墜落・転落」と「転倒」、「交通事故」による事故が多く、残念ながら、平成 30 年度以降は毎年、死亡事故が発生している。なお、その原因としての安全帯の未装着や高所作業の際の安全確認の徹底について、県内センターを通じて会員へ呼び掛けている。

3.安全就業への取り組み

(1) 「安全対策検討部会」及び「事故防止委員会」の設置及び開催

安全就業に係る対策検討部会及び事故防止委員会については、それぞれ5月と3月の年2回開催し、県内における就業中、就業途上の事故の分析とそれに伴う事故防止対策及び、「安全就業対策実施計画」の策定などについて検討・実施している。

令和4年度重点実施項目

- 「死亡事故・重篤事故防止の徹底」
- 「安全・適正就業作業ガイドライン」等に沿った事故防止策の充実・強化
- 新型コロナウイルスの感染防止及び熱中症防止対策の徹底
- 市町村等の実施する特定健診、後期高齢者医療制度による健康診査等の受診推奨

(2) 安全就業研修会の開催

本県では毎年 1 回、県内シルバー人材センター・生きがい事業団（以下、シルバー人材センター）に在籍の安全就業指導員を対象に安全就業研修会を実施している。研修会の内容は、前年度の事故発生状況や直近の事故報告を基に選定しており、外部講師による講演や各センターからの事例発表、県内シルバー人材センターの事故概況等となっている。

【近年の安全就業研修会取扱いテーマ一覧】

R2 年度	「死亡事故〇に向けた安全対策～墜落・転落・転倒を防ぐために～」 講師：中野労働安全コンサルタント事務所 所長 中野洋一氏 「重篤事故と訴訟～全国の事例から～」 講師：檜垣総合法律事務所 所長 檜垣弁護士
R3 年度 →コロナ により中止	「働く高齢者のための安全確保」 講師：独立行政法人労働者安全機構 労働安全衛生総合研究所 研究員 「高齢者に起こりがちな交通事故の防止」 講師：神奈川県警交通部 交通安全教育隊 隊員
R4 年度	「コロナ禍における高齢者の健康管理と安全就業」 講師：公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団 研究部長 石橋智昭 氏 「令和3年度県内シルバーにおける事故発生状況及び新型コロナウイルスの感染状況について/事故報告における“原因分析”“再発防止策”について」 講師：連合会職員

今年度の研修会については、令和3年度シルバー保険は対象外であったが、就業者や就業途上における会員の持病に起因する死亡事故が多く発生したため、新型コロナウイルスの感染予防やフレイル予防の観点も含め、改めて高齢者の「健康管理」について、ダイヤ高齢社会研究財団の石橋研究部長にご講演いただいた。参加者からは「大変有意義な時間だった。」と大好評であった。



【令和4年度安全就業研修会の様子】

(3) 安全・適正就業パトロールの実施と各センターにおける安全対策

現在、パトロールは連合会では実施しておらず、各センターにおいて、安全就業推進員が中心となり、計画的かつ定期的に実施している。

また、各センターでは、契約時の就業前安全教育を始め、交通安全講習会、熱中症予防など全会員に向けたものや、業種別に植木、除草などに関連した講習会や研修会も実施しており、最近では、安全带・安全帽の未着用や除草作業時の防護ネット未使用等、会員の故意又は重大な過失と認められた場合、いわゆる「ペナルティ制度」の導入により事故防止に努めるセンターが増加している。(県内32センター中12センターにて導入)

(4) 「安全就業標語」「ヒヤリハット体験事例」と安全就業拠点表彰

本県では毎年、会員及び職員を対象に「安全就業標語」の募集を、また隔年で「ヒヤリハット体験事例」の募集を実施しており、応募作品の中からそれぞれ最優秀賞、優秀賞、佳作を選定し、安全就業優秀・優良拠点とともに定時総会において表彰を行っている。

なお、連合会では、「安全就業標語」における最優秀賞、優秀賞の作品をポスターとして作成し、また「ヒヤリハット体験事例」の優れたものについても「ヒヤリハット体験事例集」としてとりまとめ、ポスターとともに安全就業の推進に活用している。



(5) 今後の安全就業について

今後の安全就業に向けた取り組みとしては、死亡事故や重篤事故を発生させないことを目標に、加齢により身体能力、判断力などが低下することをふまえて、全帯や安全帽の装備着用はもちろんのこと、慣れなどによる油断をしないことや、安健康をこころがけた日常生活を推奨し、いつまでも元気で就業し続けてもらえるよう働きかけていきたいと考えている。

★★★神奈川県シルバー人材センター連合会様からの報告でした。

ご報告、誠にありがとうございました。★★★

未然防止～ハラスメント～早期解決

職場のいじめや嫌がらせ、いわゆる「ハラスメント」の発生件数は年々増加していると言われています。ハラスメントによる心理的圧迫を受けていると、仕事で十分に力を発揮することができなかったり、上の空になってけがをしたり、心身の不調を招くこともあります。

職場におけるハラスメントは当事者同士だけの問題ではなく、職場全体の問題です。働きやすい職場づくり、一緒に働きたい仲間づくりをしていきましょう。

ハラスメント防止対策（相談体制の整備など）の義務化が進められています！
（改正労働施策総合推進 等）

2007年～ セクシャルハラスメント
2017年～ マタニティハラスメント
2020年6月～ （大企業）パワーハラスメント
2022年4月～ （中小企業）パワーハラスメント

このほか、ジェンダーハラスメント、モラルハラスメント、ケアハラスメント、テクノロジーハラスメントなど、新たな問題も広がっています。

ハラスメントを3つの立場から考えてみよう

ハラスメントを
されていないか？

嫌がらせを受けていると感じたら、自分一人で抱え込まず、相談できる人や専門の窓口で話を聞いてもらいましょう。

早めに行動することで、事態がエスケレートする前に解決につながります。

ハラスメントを
していないか？

行為者は、自分が人に苦痛を与えている自覚がない場合があります。考えを一方向的に押し付けていないか、行き過ぎた行動でないか、違う言い方はできないかなど、日ごろの言動を振り返り、より良い方法を実践していきましょう。

- ・人前で怒る
- ・感情的になる
- ・言い方がきつい
- ・相手の考えを聞かない
- ・自分の考えを押し付ける
- ・私生活について検索する

ハラスメントを
見逃していないか？

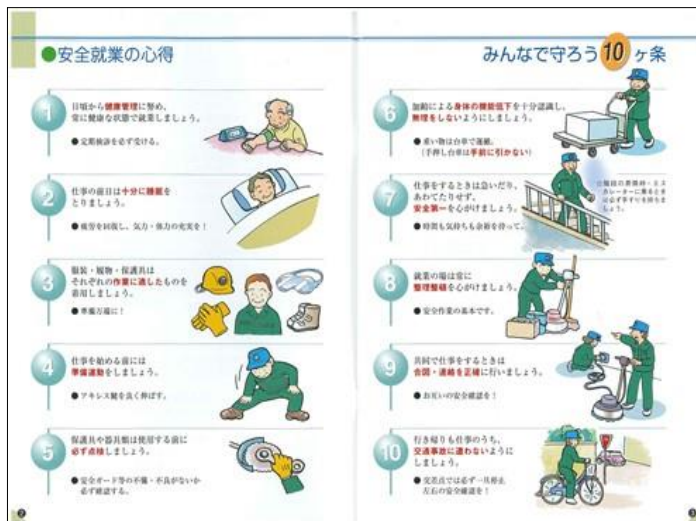
自分が問題に巻き込まれることを避けたいという気持ちなどから、見て見ぬふりをすることはないでしょうか。

おかしいなと思った時は、被害者に声を掛けたり、上司や相談窓口に伝えて、職場のハラスメント防止につなげましょう。

厚生労働省のポータルサイト「あかるい職場応援団」を！

職場を離れて相談したい人向けに、労働局や労働基準監督署で電話やメールでの無料相談を行っています。また、ハラスメントに関する知識を学べる資料や動画が多数掲載させています。

安全就業のためのチェックポイント



会員が安全に就業するための要点を、全カラー版でまとめたイラスト小冊子

A4 判 32 ページ 2017(平成 29)年 3 月発行 以降、増刷対応

(10 部以上からの販売)

価格 184 円(税込)、送料実費

編集後記

3年続いた新型コロナウイルス感染症も新たな段階となり、マスクの着用も個人の判断に任されるようになりました。5月には2類から5類への引き下げとなり、治療代も個人負担へ。本当に大丈夫なの？と思わなくもありませんが、街の人出は増加の一途を辿り、今まで我慢していた反動か、何でもありの感じです。そんな中、東京では早々開花宣言があり、お花見の時期となりました。この3年、「一人お花見」でひっそり愛でてきた桜も今年は誰かと一緒に見に行きたいものです。今年度も「安全就業ニュース」をご愛読いただきましてありがとうございます。皆様一人ひとりの努力のお陰で、今年度の重篤事故件数はここ数年に比べかなり減少する見込みです。しかし、まだ事故がゼロになったわけではありません。みんなで目指そう、事故ゼロシルバー!!来年度も引き続きよろしく願いいたします。(松山)

私事ですが、先日、東京マラソンに出場しました。この大会を初めて生で沿道から観戦した際に、ランナーとボランティア、そして沿道の方々との一体感が素晴らしくて感動し、自分も生まれ育った東京の街を走ってみたいと強く思いました。人気の大会のため出走権を得るのは難しく(約10倍)、申し込みと落選を繰り返し、諦めかけていた8年目によようやく当選しました。それが4年前。その後、新型コロナウイルスの世界的流行により開催3週間前に中止となってしまいました。出走権は今年に振り替えられましたが、コロナ禍の引き籠もり生活に慣れ、この3年間はランニングする気にならずモチベーションも下がっていました。体重の増加と練習不足で不安ばかりが募る中、当日を迎えましたが、スタート地点には驚くほど大勢のランナーが集まり、中にはかなり高齢の方もいらして、徐々に不安は高揚感へと変わりました。25Km位までは景色を堪能しながら楽しく走れましたが、その後は足が思うように動かなくなりました。途中で倒れている人が数人いましたが、こちらも余裕はなく何人もの高齢ランナー達に追い抜かれながら一步一步前に進みました。40キロを超えたあたりから東京の街の景色を楽しむどころではなくフラフラでしたが、ボランティアのサポートや沿道の人々の声援、家族や友人の応援に後押しされ、念願であった東京マラソン42.195Kmを何とか完走することができました。今回走ってみて色々な気付きがありました。イベント運営側の緻密さと苦勞、何事もコツコツとした積み重ねが大事であること、東京の街の良さ、人の優しさ、そしてシルバー世代の方々のパワー。皆さんもフルマラソンを走る事はなくても、健康に留意して毎日を楽しみ積み上げていってくださいね。(高木)